

事業名		代表者所属	国立米子工業高等専門学校
14KJ-024		代表者	技術専門員 上田 輝美
何ができるかお楽しみ！不用品を持ってきて作ろう、MYインテリア雑貨		開催地	米子市
		助成金額	11万円
活動概要	<p>日時：2014年7/20、7/26、8/2、8/5、11/27</p> <p>場所：県西部周辺児童館・学童保育施設・公共施設</p> <p>対象：小学生、社会人(保護者、児童館指導員、介護施設職員) 参加者(人):112人</p> <p>内訳：(生徒;82人)(社会人;30人)</p> <p>内容：受講者に工作に使いたい不用品を持ってきてもらい、与えられた材料と合わせてオリジナルな雑貨を作りあげる出前講座を行った。作品作りを通し、創造性を育み、ものづくりに対する理解と、社会におけるものづくり基盤の醸成を図った。</p>		



受講者作品例1  
ダンボールをベースとしたフォトフレーム工作



受講者作品例2  
ダンボールをベースとしたフォトフレーム工作



受講者作品例3  
ペットボトルをベースとしたランプ工作



受講者作品例4  
ペットボトルをベースとしたランプ工作

## 事業の目的・ねらい

多様化したニーズに対応する国際競争力を有するものづくりのための、創造性豊かな人材育成の必要性が強く叫ばれる中、教育機関にあつての公開講座や出前講座はその一助を担っている。しかし、実験ものや工作的要素のある講座内容で散見される市販キットは、ものづくりの流れを簡潔に体験できる反面、マニュアル通りにすれば皆同じものが完成するため、講座自体が作り方のプロセス体験に留まりやすく、創造性を育むという本来の目的とのずれが懸念される。

本事業は、創造性豊かなものづくり人材育成のため、小学生を主とする受講者に対し、自分の感性や自由な発想で試行錯誤を繰り返しオリジナルな作品を作りあげる場を与えることを目的とし、受講者に、「デザイン・創造」のプロセスの楽しさを体感してもらうことで、社会全体としてのものづくり基盤の醸成を図るものである。

## 事業の概要

本事業は、参加者に、工作に使ってみたいものや不用品を持参してもらい、リサイクル工作でインテリア雑貨を作ってもらう出前講座である。受講者はフォトフレーム・時計・ランプの3工作種から1種を選び、それぞれが、持参した材料と、本事業取組者側で予め準備した不用品や材料とを組み合わせ、自分の感性とアイデアで自由に、世界に一つだけのMYインテリア雑貨を作った。

受講申込は児童館、学童保育施設、公共施設からあり、その受講目的も、夏休みの工作から公的施設イベント企画等、多岐に及んだ。いずれの講座も乳幼児から社会人まで、小学生を中心に延べ110名以上が、オリジナルな作品作りを楽しんだ。

**日時** 2014年6月1日～12月20日

**場所** 鳥取県西部・島根県東部周辺の児童館・公共施設・  
2014年7/20、7/26、8/2、8/5、11/27

**対象** 小学生、社会人(保護者、児童館指導員、介護施設職員)  
観光事業団イベント40人(県西部7/20)、特別養護老人ホーム事業20人(島根県東部7/26)  
児童館事業15人(県西部8/2)、社会福祉法人事業16人(県西部8/5)  
児童館連絡協議会事業21人(鳥取県西部11/27)

## 結果及び効果

講座に際しては、受講者に、使ってみたい不用品(割り箸、ボタン、包装紙等)を各自準備しておいてもらい、講座当日に持参してもらった。受講者は、これらを、予め本事業取組者側で準備した不用品や材料と合わせ、自分の感性とアイデアで自由に、段ボールやペットボトルをベースとしたフォトフレームやランプ、時計のオリジナルなインテリア雑貨作りを楽しんだ。

当日まで、材料として、受講者が何を持ってくるのかわからない講座であり、講座内ではどんなサプライズにも想定内で対応できることが望まれた。特に、接着に関しては、講座では基本的に木工用ボンドを用いるが、素材によってはくっつかないものもあり、また、乾燥時間も長いので、限られた時間内での工夫が必要となる。接着さえできれば、作品として完成され、受講者にとっての達成感は大い。

そのため、講座にさきがけては、受講者がどんなものを持ってきても、とりあえずは付けられるよう、実施担当者間で、家の中の(しかも講座に持って来られる可能性のありそうな)スポンジや発泡トレイなど、材料を手当たり次第集めては様々な種類の接着剤で試し付けをし、乾燥時間をはかり、材料に適した接着剤の種類の検討を重ねて、講座当日へ臨んだ。